

D-3 児童の生活構造の時代的変遷に関する総合的研究 (その3) 食生活について
大妻女大 家政 〇八倉巻和子 前川當子

研究目的、方法等は[その1]で説明した。幼児の食生活構造を捉えるため、体位ならびに食物の嗜好や摂取の傾向、偏食、間食について検討した。さらに母親の食生活についての留意点やしつけ等について調べたので報告する。

- ① 幼児の体位は、男女別に平均身長 107.1 cm, 109.1 cm, 平均体重 17.9 kg, 17.2 kgであり、Kaup指数は 15.5 ± 1.7であった。健康状態は、健康 88%, 病気がち 12%であった。
- ② 主な食品(16種)の嗜好を調べたところ、好きな食品の順位は果物、アイスクリーム、卵、ハム、油脂類、肉として牛乳で、嫌いな食品としてレバー、野菜などがあげられた。主食には朝食にごはんとパン、夕食にごはんが好まれていた。
- ③ 偏食については、とくに好き嫌いのある幼児が24%あり、男児は偏食の子が多い。また、偏食をする幼児は、病弱、授乳期間が長い、両親が偏食等の関係を見出した。
- ④ 幼児の間食は、1日に2回、時間を決めて間食し、菓子、果物、飲物の順で与えられている。また与え方としては買って与える57%, 家で作る35%であった。
- ⑤ 母親の食事に対する留意は、栄養(54.5%), 好み(36.3%)で他に予算、ありあわせなどであった。

以上の調査結果から、母親の生活態度が幼児の生活構造に影響することが多いので親と子の関係について、さめこまかに検討した。① 親子の体位の相関、② 親子の偏食の関係、③ 母親の食生活態度・しつけと幼児の態度、④ その他1~2の特徴ある例、などについて調べた結果若干の知見を得た。